

非日常 —を楽しまむ

天井の高さが約4・5メートルの空間の壁や床に、自然や動物を撮影した写真作品が並ぶ。

一見、現代アートのギャラリーのようなのだが、違う。「京都アートホテル クマグスク」(京都市)。比較的安い料金で泊まれるゲストハウスだ。そこにアート作品の展示スペースが設けられている。作品を展示している空間は客室に面し、広さは約13平方メートル。現在、現代美術家4組による展覧会「光と洞窟」が開かれている。割安な宿泊施設という枠を超え、アートファンが数多く訪れる。

出張で2度、宿泊したという東京都在住の団体職員男性(34)は、美術関係の仕事をしている。「入館時間が決まっている美術館やギャラリーと違って、マイペースで作品と向き合えるのがいい。朝食のテーブルでも宿泊した女性とアートの話で盛り上がった」ゲストハウスは、2段ベッドを置いた相部屋などもあり、浴室やトイレ、洗面所は共同のところが多い。その分、

宿泊空間でアートな体験

安い料金で宿泊できる。京都市では観光客の増加を受け、ゲストハウスが相次いで開業。タクシー運転手は「高級ホテルや旅館より、路地裏にあるゲストハウスに案内することが多くなった」と話す。クマグスクも築70年の木造アパートを大規模改修し、今年1月ゲストハウスとして営業を始めた。オーナーで現代美術家の矢津吉隆さん(34)は「ほかにはないゲストハウスを造るため、アートの力を借りた。宿泊客に限らず、アートを通して地域の交流の拠点にしていきたい」と話す。

都心の大型ホテルでも、ホテルの独自性を強調し、宿泊客を非日常に導く仕掛けとしてアートの力に注目するケー

*



「ゲストハウスとアートを融合させ、いろんな人と交流できる拠点にしたい」と話す矢津さん(京都アートホテル クマグスク) 吉野拓也撮影

外国人客にも人気



幻想的な雰囲気のアートイストルーム「芸者金魚」(パークホテル東京で)

スが目立つ。

東京都港区のパークホテル東京(273室)は、そうしたホテルの一つ。31階の15室を「アティイストルーム」として提供している。宿泊客の7割を外国人が占めることも

あり、日本のアティイストが「日本の美意識」をテーマにした作品を部屋の壁や天井に描いている。

中でも外国人に人気なのが「芸者金魚」と呼ばれる部屋。天井や壁に500匹以上の金魚が描かれ、水槽の中にあるような不思議な感覚になる。

他の部屋にも様々な「仕掛け」がある。その一つが制作中の「城」。夜になると、壁に描かれた「江戸城」が照明で窓に映り、オフィス街の夜景に浮かぶ。制作者の日本画家、水口和紀さん(42)は「この部屋でしかできない体験を楽しんでもらえれば」と話す。

豪華な内装、洗練されたサービス、有名シェフの作った料理……。都心の高級ホテルが、その独自性を競い合う中、「アートの力で集客につなげたい」と、同ホテルの広報担当者は話す。

*

大阪市西区のビジネスホテル「ロックスターホテル」(17室)では、各部屋の壁に海外のロックスターをテーマにしたアート作品を展示。高音質の音楽を楽しめる海外製のスピーカーなども置いてある。旅行口コミサイトでこのホテルを知って宿泊した中国人の男性(28)は、「気に入って4泊した。ロックスター気分を満喫できた」と話す。

ホテル事情に詳しい、大阪国際大学非常勤講師の西田淑子さんは話す。「ホテルでの快適な滞在は当たり前前で、宿泊客は斬新さや希少価値のある体験を求める。それに応え、非日常を演出する手段としてアートの注目されている」

「慌ただしい日々を送る中、非日常の世界をつかの間楽しむことで、新しい発見があり、漫然と過ごしてきた日常が活性化される。」(おわり)

(岩浅憲史が担当しました)